

安来地域の前期古墳出土鉄剣・ヤリについて

吉 松 優 希

はじめに

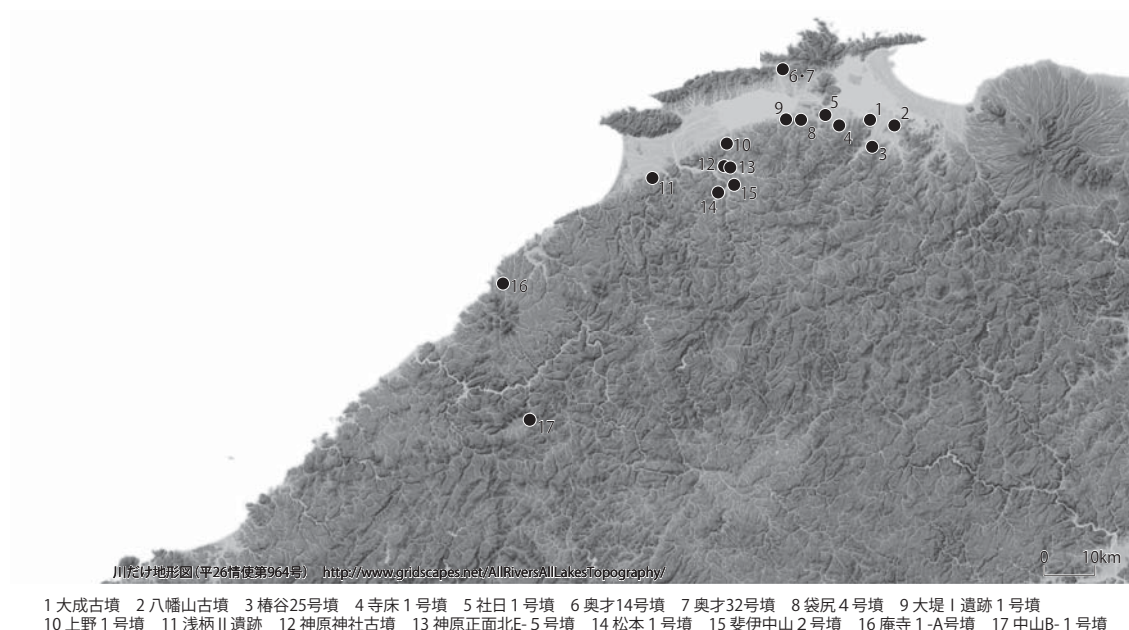
古墳時代前期に古墳に副葬される武器として鉄剣やヤリがある。出雲地域でも各種の鉄剣やヤリが出土している。出雲地域の前期古墳は方墳が卓越し、現在の安来地域（荒島町）に大型方墳が築造されることが知られている。今回、安来地域出土の鉄剣などを実見し、新たな知見を得たので、資料の紹介を行うとともに、出雲地域における鉄剣・ヤリの副葬のあり方について若干の考察を加えたい。

1 安来地域出土の古墳時代前期の鉄剣・ヤリ

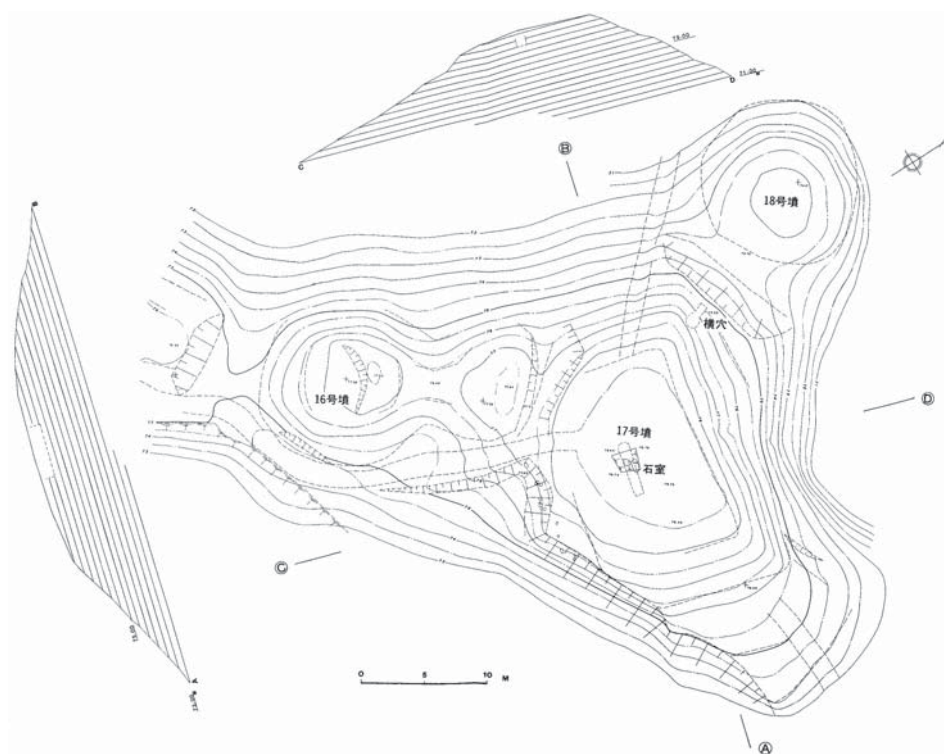
（1）椿谷25号墳（矢田古墳群宮谷支群17号墳）

椿谷25号墳はかつて矢田古墳群宮谷支群17号墳とされていた25×21mの方墳である。この古墳は1962年に内田才氏によって竪穴式石槨が確認され、『安来市誌』に椿谷古墳として紹介されている（内田1970）。1977～1978年に本庄考古学研究室を中心とした分布調査等で多くの古墳が確認されたことから椿谷古墳群と総称される（原田1982）。その後、安来市教育委員会によって1987年に分布調査と一部測量調査が行われ、古墳群の総称を矢田古墳群とし、4つの支群（岩熊支群、宮谷支群、椿谷支群、須賀谷支群）に整理、総数108基の古墳群として紹介され、当該古墳を宮谷支群17号墳としている（安来市教委1988）。2010～2011年には本庄考古学研究室によって再度の分布調査等が実施されている（内田・曳野・松本2012・2013）。その成果によって84基からなる古墳群と整理がなされる。

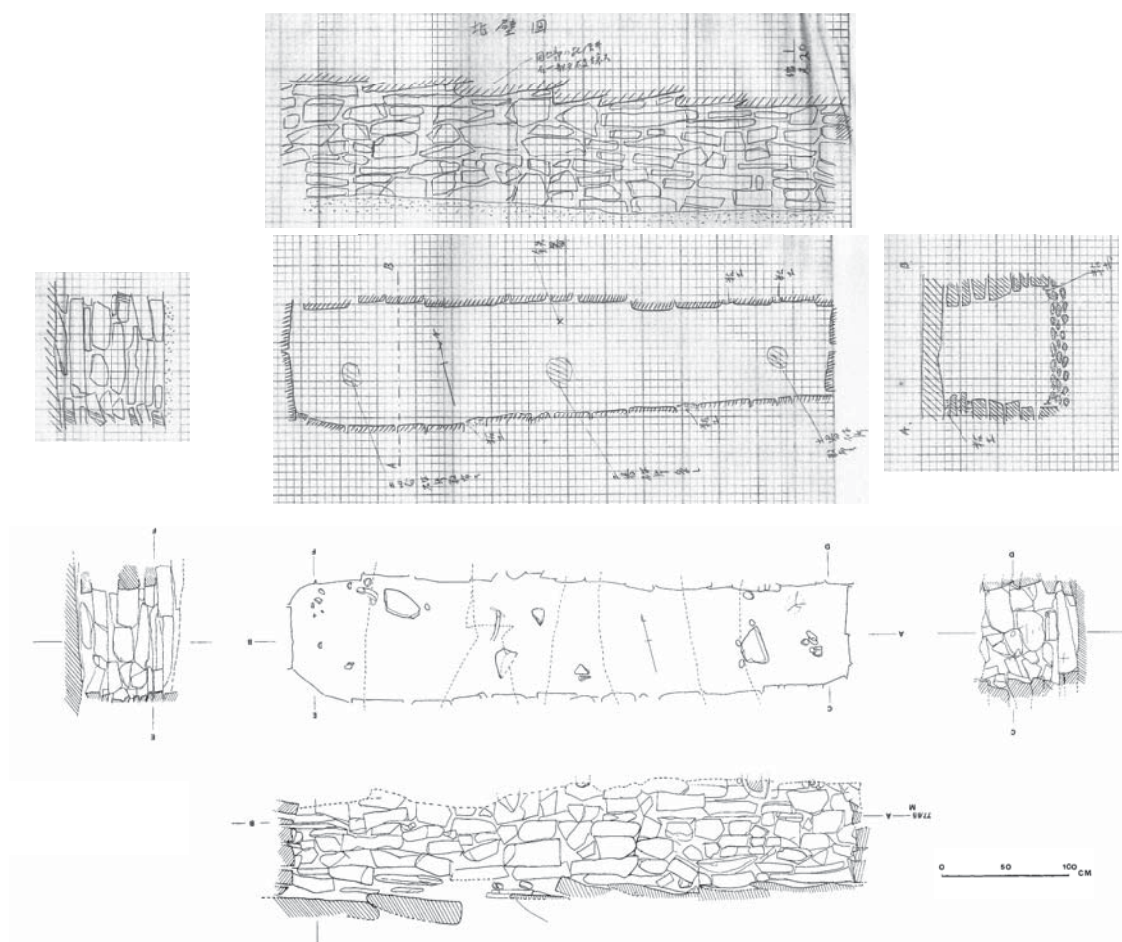
椿谷25号墳は古墳群が位置する丘陵中央部の尾根が三つ又となる部分に立地する。前述のとおり、25×21mの方墳であり、測量調査の際に墳裾部に葺石が確認されている。埋葬施設は墳丘のほぼ中央部に位置する竪穴式石槨で、主軸は東西方向である。規模は長さ4.5m、幅0.66～0.96m、高さ0.85mで、割石を小口積みにする。天井



第1図 島根県域の鉄剣・ヤリ出土前期古墳

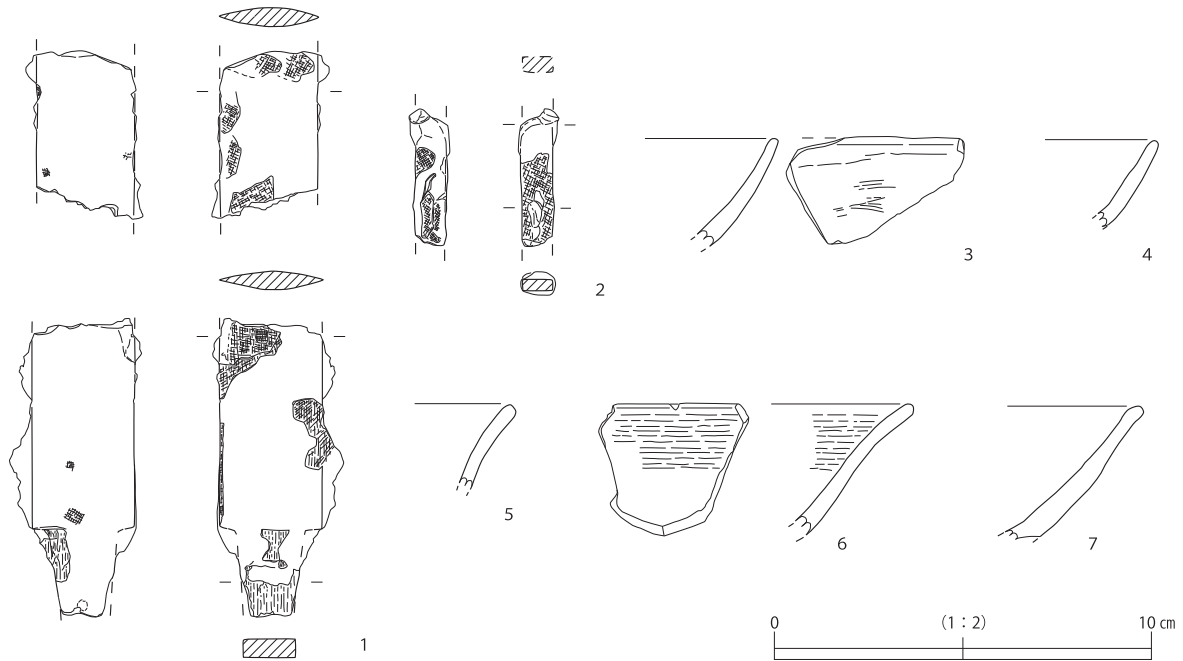


墳丘測量図（17号墳が椿谷25号墳）



豎穴式石槨実測図
(北壁・西壁・断面図・平面図：山本清考古資料(上段4つ)、南壁・西壁・東壁・平面図：安来市教委1988(下段4つ))

第2図 椿谷25号墳墳丘・竪穴式石槨測量図



第3図 椿谷25号墳出土遺物実測図

は板石を複数枚並べている。西側の幅が広く、両隅は丸くおさめる。盗掘により床面の状況は明確ではないが、床面の一部に粘土が残存し、その下層は円礫を含む。また床面の石のレベルは東側のものが低くなっていることから、排水施設の方向を示す可能性が指摘されている（安来市教委1988）。安来市教育員会で実測が行われているが、1962年の内田才氏による実測図が山本清考古資料に残されている。内田才氏の図面からは壁体の石材間に粘土が詰められていることがわかる。この調査の際に内田氏によって鉄剣、鉄器、土師器片が採集されている。土師器は石室内の各所⁽¹⁾、鉄器は石槨内北側中央で採集されたものである。

①鉄器

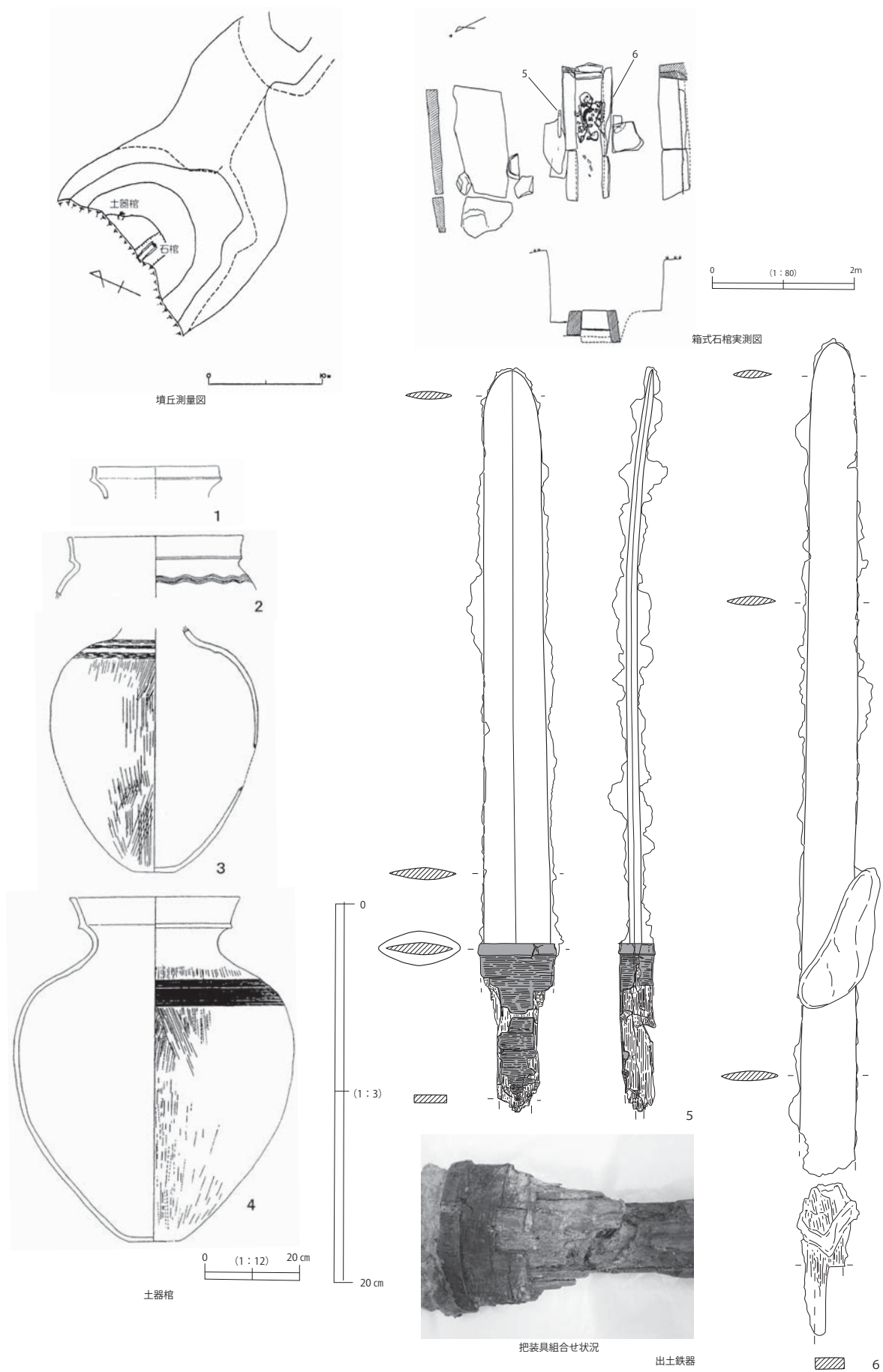
第3図1は鉄剣である。現状は2片に割れており、切先や茎尻の形状は不明である。幅は2.7cm、厚さ0.5cm程度である。関はやや緩い直角状を呈する。茎部には木質が残存するが、刃部には木質は見られず、布目がよく残存する。布目の方向から布は二重になっていたものと考えられる。刃部に木質は見られず、布目が見られることから鞘からは出した状態で刃部を布巻きした状態で副葬していたものと考えられる。2は不明鉄器である。残存長3.6cm、幅0.8cm、厚さ0.32cmの棒状の鉄器で断面は方形である。全体に布が付着しているが、鉄剣に比べてやや布目が荒い。

②土師器

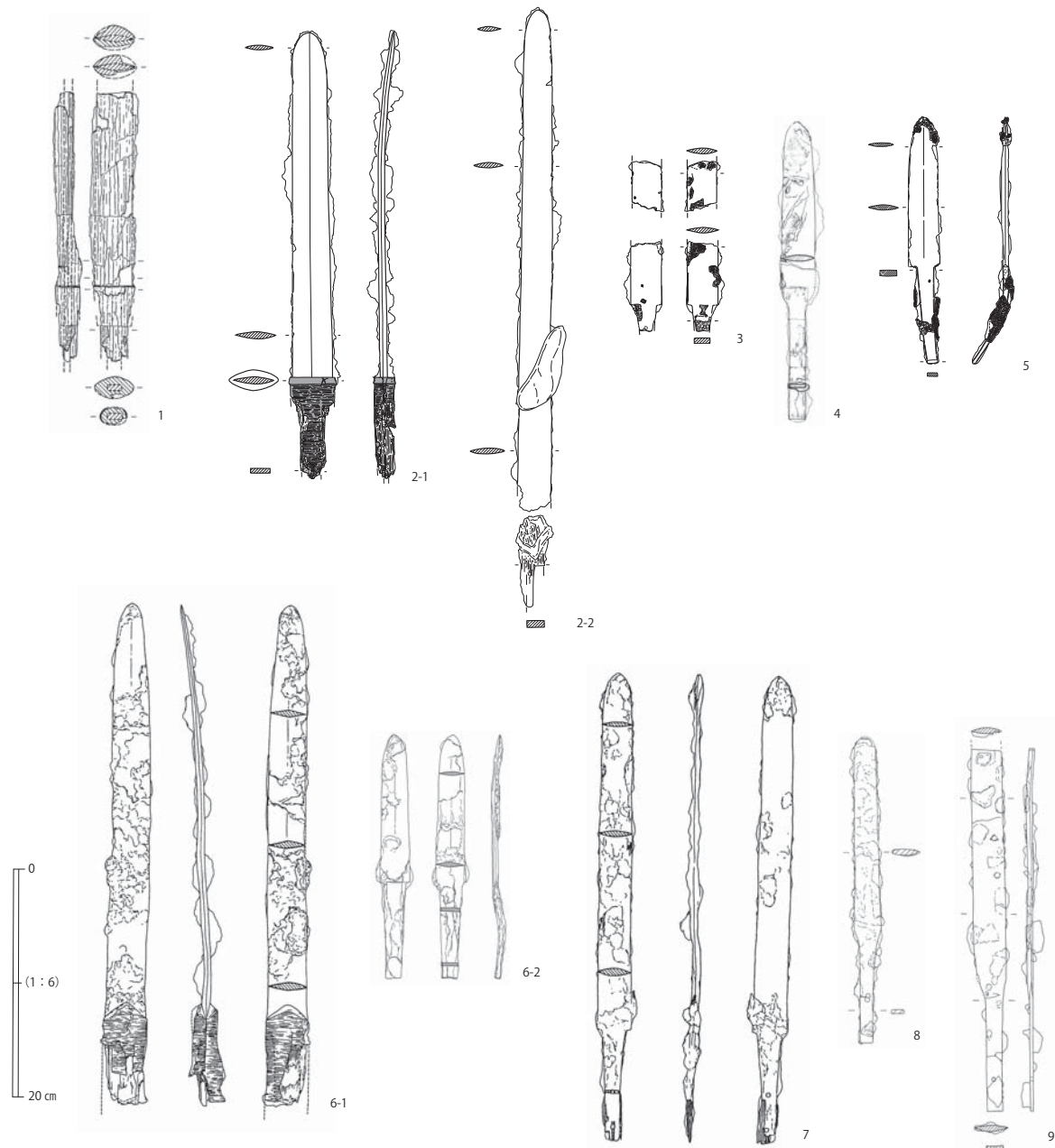
3～7は土師器である。このほかにも小片があるが、器種などの特定は困難なため、口縁部のみを実測、掲載した。3～6は高坏と考えられる口縁部である。多くは摩滅により調整などは不明であるが、6は内面にヨコハケがみられる。7は高坏、あるいは鼓形器台の可能性がある土師器の口縁である。色調は3～6が内外面ともに赤褐色を呈するが、7は内面黄褐色を呈する。

(2) 八幡山古墳

1963年に丘陵の開発造成により不時発見された古墳であり、墳丘の規模は南北約17m、東西残存規模8mの方墳で埋葬施設として箱式石棺と壺棺が確認されている。鉄剣は箱式石棺の棺外の両側石に沿って2振が出土している。棺内の副葬品は見られないが、成人骨1体が埋葬されていた（東森1989）。土器棺に用いられた土師器か



第 4 図 八幡山古墳墳丘・箱式石棺・出土遺物実測図

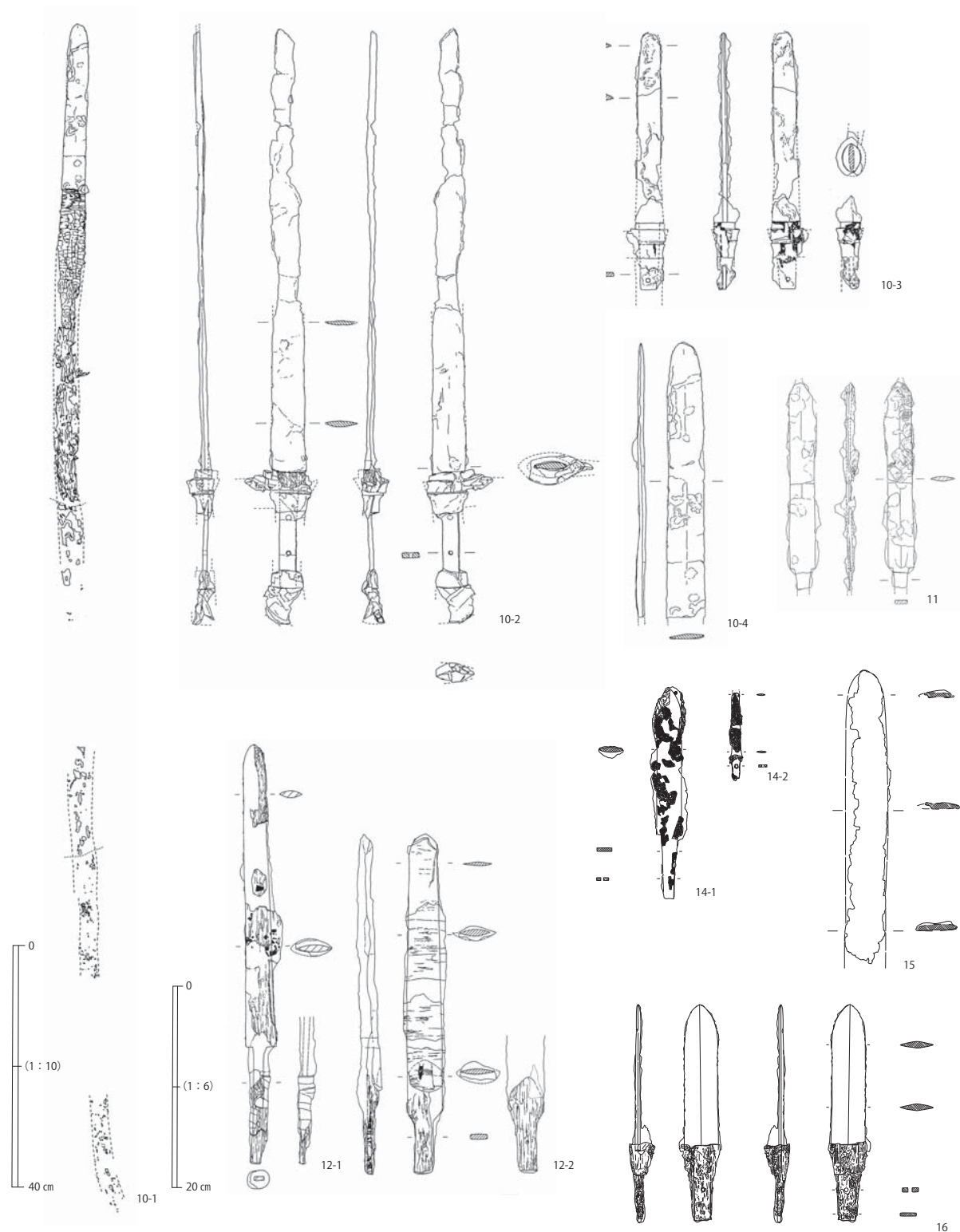


第5図 島根県域の前期古墳出土鉄剣・ヤリ集成（1）

ら中四研Ⅲ期（小谷3古段階）に位置づけられる（松山2018）。

①鉄器

出土した鉄器は鉄剣2振である。第4図1は残存長39.2cm、刃部幅3.5cmで、断面は菱形である。柄には柄木が良く残り、柄木の上には樹皮を巻いている。樹皮巻き後に漆を塗って固定する。柄縁は菱形を呈する。柄木の構造は樹皮巻きによって判然としないが、残存状況からは4枚合わせと判断される。その点からすると鉄剣ではなくヤリとしてとらえた方が良い資料であり、ヤリとした場合は直線型B類になる（豊島2010）⁽²⁾。刃部には木質は認められず、鞘から抜いた状態で副葬されたものである。2は残存長44.2cm、刃部幅3.0cm、断面はレンズ状である。関部が失われているが、茎部の一部も残存している。茎部には柄木が残存するが、刃部には木質は認められない。1と同様に鞘から抜いた状態で副葬されたものである。



第6図 島根県域の前期古墳出土鉄剣・ヤリ集成(2)

(3) 小 結

椿谷25号墳では鉄剣のほか、土師器などの図面を掲載したが、いずれも時期を決定するには至らないものである。時期決定の参考として、ここでは竪穴式石槨について注目してみたい。椿谷25号墳の竪穴式石槨は小型のものであるが、特徴として板石を複数枚で蓋石とすること、壁体が垂直に近い角度で立ち上ること、壁体の石材間に粘土を詰めること、床面に粘土や礫を用いる点である。安来地域で竪穴式石槨を採用する古墳としては大成

第1表 島根県域の前期古墳出土鉄剣・ヤリ一覧

	古墳名	所在地	墳形	規模 (m)	埋葬施設	種別	副葬状態	築造時期	文献
1	大成古墳	安来市荒島町	方	57×41	竪穴式石槨	剣3?	鞘入り	中四研Ⅱ	1
2	八幡山古墳	安来市吉佐町	方	17×8+	箱式石棺	剣、ヤリ	抜き身	中四研Ⅲ	2
3	椿谷25号墳	安来市矢田町	方	25×21	竪穴式石槨	剣	抜き身・布巻	中四研Ⅲ～Ⅳ?	3～6
4	寺床1号墳	松江市東出雲町	方	33×21	礫槨	剣	抜き身・布巻	中四研Ⅲ	7
5	社日1号墳	松江市竹矢町	方	19.5×15	木槨木棺	剣	抜き身・布巻	中四研Ⅰ	8
6	奥才14号墳	松江市鹿島町	円	18	箱式石棺	剣2、ヤリ	抜き身	中四研Ⅳ～Ⅴ	9
7	奥才32号墳	松江市鹿島町	方	9.5	箱式石棺	剣	鞘入り?	中四研Ⅴ	9
8	袋尻4号墳	松江市平成町	方		土器棺	剣	抜き身	中四研Ⅰ～Ⅱ	10
9	大堤Ⅰ遺跡1号墳	松江市玉湯町	円	20?	箱式石棺	剣	抜き身	中四研Ⅴ	11
10	上野1号墳	松江市宍道町	円	39×35	粘土槨	剣2、ヤリ	抜き身	中四研Ⅴ	12
11	浅柄Ⅱ遺跡	出雲市知井宮町	円	20?	礫槨	剣、小形剣 形鉄器	抜き身・布巻	中四研Ⅴ?	13
12	神原神社古墳	雲南市加茂町	方	30×26	竪穴式石槨	剣、ヤリ	鞘入り、布巻	中四研Ⅰ	14
13	神原正面北E-5号墳	雲南市加茂町	方	17×12	木棺直葬	剣?		中四研Ⅰ	15
14	松本1号墳	雲南市三刀屋町	方方	50	粘土槨	剣	抜き身・布巻	中四研Ⅲ	16
15	斐伊中山2号墳	雲南市木次町	円	15×12	木棺直葬	剣	抜き身?	中四研Ⅳ	17
16	庵寺1-A号墳	大田市仁摩町			箱式石棺	ヤリ?	抜き身	中四研Ⅴ	18
17	中山B-1号墳	邑智郡邑南町	方方	22.3	箱式石棺	剣2		中四研Ⅳ	19

※埋葬施設は剣、ヤリの出土したものを記載

古墳や造山1号墳、造山3号墳がある。椿谷25号墳の竪穴式石槨の特徴は前述の荒島地域の首長墳にもみられる特徴であり（上田2022）、これらの古墳との関連をうかがうことができる⁽³⁾。壁体の積み上げ開始位置も礫敷（粘土）部分よりも下と考えられ、壁体構築の後に床面を仕上げる点も大成古墳などと同様である。このことから荒島地域の首長墳の竪穴式石槨との共通性が非常に強いものであることがわかる。特に床面の構造に注目すると礫敷ののち、粘土を用いる点は大成古墳と共通する。ただし、大成古墳に後続する造山1号墳、3号墳は礫敷により床面を構築しており、壁体なども含めた構築順序は造山1号墳に近い。椿谷25号墳の棺床に粘土が用いられたか、礫敷によるものか現状では判断が難しいが、構築順序や床面の構造などを重視して大成古墳以降の時期に位置づけられる可能性がある⁽⁴⁾。明確な位置づけは困難であるが、墳丘規模や竪穴式石槨の共通性などからは荒島地域の首長墳の下位層に位置づけることができるかもしれない。

八幡山古墳は、2振ともに鉄剣と報告されてきたが、そのうち1振はヤリである可能性を指摘した。ヤリとしては直線型B類となるが、中四研Ⅰ期にすでに出現しているもので、土師器から求められる時期と矛盾はない（池淵2019）⁽⁵⁾。

2 島根県域における古墳時代前期の鉄剣・ヤリ副葬

次に島根県域における古墳時代前期の鉄剣・ヤリについて少し考えてみたい。島根県域で古墳時代前期に位置づけられる鉄剣は21点、ヤリは5点ある⁽⁶⁾。今回は全ての資料について実見などできておらず、形式的な位置づけなどは今後の課題としたいが、その中で副葬状況について注目してみたい。

島根県域における古墳時代前期の鉄剣・ヤリについては26点のうち確実に鞘入りで副葬されているものは大成古墳と神原神社古墳の例⁷⁾で、その他は抜き身か、抜き身で布巻をする。抜き身で布巻状態で出土している事例をみると中四研Ⅰ～Ⅲ期の事例に集中することがわかり、大きく前期中葉までみられる副葬習俗の可能性もあるかもしれない。

これらの前期古墳における刀剣副葬の地域性を検討した宇垣氏によると、山陰地域は抜き身、布巻を主体とし、鞘入りは少数に限られることを指摘している。そのうえでこれらの鞘入りの刀剣が首長層に限られることや北頭位をとること、三角縁神獣鏡、山陰型特殊器台形埴輪などの要素を独占的に保有し、下位層との格差を示すことを指摘している（宇垣1997）。この指摘は資料数が増加した今日的にみてもその指摘は妥当といえよう。

宇垣氏の指摘から、椿谷25号墳に再度注目すると、鉄剣は抜き身・布巻での副葬、頭位方向は埋葬施設の主軸から東西頭位となる。その他の副葬品などは不明な点が多いが、埋葬頭位と副葬刀剣のあり方にみる相関性は出雲地域では階層性を表示しているものとされ、上位層のみ畿内の儀礼を受容していると指摘される（宇垣1997）。このような点からは、椿谷25号墳は下位層で行われる葬送儀礼で送られており、首長層との階層差が反映されている可能性があり、先述の指摘を補強することができる（池淵1998）。

一方で先述のとおり、竪穴式石槨の構造などは荒島の首長層にみられる竪穴式石槨との共通性を指摘することができる。このような状況は島根県内の他地域ではみられず、両者の関係性の深さを知ることができる。以上、頭位や鉄剣の副葬のあり方から首長層よりも下位に位置づけられ、一方で埋葬施設の共通性がみられる点から椿谷25号墳は荒島の首長層の下位に位置づけられるが、埋葬施設ではその構造を共有し、ある程度の関係性をもつと考えることができる。荒島地域からはやや離れているが、墳丘や埋葬頭位、鉄剣の副葬のあり方から階層性、竪穴式石槨の構造等からは共通性が表現されており、荒島地域の首長のあり方を考えるうえでも重要であると考ええる。

おわりに

これまで安来地域の古墳時代前期の鉄剣・ヤリについて資料紹介をしたうえで、島根県域での副葬状況についてごく簡単に整理した。これまで鉄剣とされていた八幡山古墳出土例や庵寺1-A号墳例などは装具の特徴からヤリである可能性を指摘した。

また、椿谷25号墳について竪穴式石槨の構造や鉄剣の副葬状況から荒島の首長層の下位に位置づけられる可能性を指摘した。あくまで過去の調査成果を踏まえたもので実際のところ詳細などは不明と言わざるを得ないが、竪穴式石槨の構造の共通性などからは両者にはある程度の関係性があるものと考えられる。出雲地域の前期古墳を特徴づける荒島地域の大型方墳を考えるうえで椿谷25号墳の存在は重要になるものと考えられる。

本稿を成すにあたり、資料調査では下記の諸氏、諸機関に大変お世話になりました。記して感謝申し上げます。

齊藤大輔、澤田正明、舟木 聡、真木大空、島根県埋蔵文化財調査センター、島根県立古代出雲歴史博物館、島根県立八雲立つ風土記の丘、安来市立歴史資料館

註

- (1) 土師器は本来、墓壇上に供献されたものであると考えられる。内部に盗掘などで侵入された際に墳頂部から転落したものであると考えられる。
- (2) 菊地氏によると剣は一木造りもしくは二枚合わせ、ヤリが四枚合わせの把をもつと整理する。構造には関把縁タイプと身把縁タイプがあることが指摘され、構造の違いは機能・用途の違いを反映するものと理解し、前者を剣、後者をヤリと

- 位置付ける（菊地1996）。鉄剣の外装を検討した岩本氏は四枚合わせの把をもち把縁が身に位置する例をヤリと判断する（岩本2006）。これらのことから今回は四枚合わせのものをヤリと判断した。なお、ヤリとした場合は八幡山古墳では墓壇の規模から柄の長さは最大1.6m程度になると考えられる。
- （3）荒島地域の堅穴式石槨の特徴に排水溝が石槨主軸に並行するという特徴がある。椿谷25号墳では排水溝は未検出であるが、床面の状況から主軸に並行する可能性があり、この点も共通性としてとらえることができる。
- （4）測量調査の際には床面に4つの割石を横あるいは立てていることから棺を乗せるためのものと想定している（安来市教委1988）。
- （5）豊島氏の総括的な編年によって、糸巻底辺型→糸巻頂点型→直線型A類→直線型B類の変遷が示されている（豊島2010）が、多量出土事例における各型式構成比の量的推移として把握できるもので単独資料としてのヤリの編年的位置づけは難しい（池淵2019）。
- （6）庵寺1-A号墳出土例は鉄剣と報告されているが、実見した結果、装具の構造からヤリ（直線型B類）の可能性が考えられる。
- （7）奥才32号墳出土例は刃部にごくわずかに木質が残存しており、鞘入りで副葬されていた可能性がある（鹿島町教委1985）。

引用・参考文献

- 岩本 崇2006「古墳出土鉄剣の外装とその変遷」『考古学雑誌』90-4 日本考古学会
- 池淵俊一1998「五反田古墳群の位置づけとその評価」『門生黒谷Ⅰ遺跡・門生黒谷Ⅱ遺跡・門生黒谷Ⅲ遺跡』島根県教育委員会
- 池淵俊一2019「武器からみた伯耆国分寺古墳の年代」『伯耆国分寺古墳の研究』島根大学法文学部考古学研究室・伯耆国分寺古墳研究会
- 上田直弥2022『古墳時代の葬送秩序と政治権力』大阪大学出版会
- 宇垣匡雅1997「前期古墳における刀剣副葬の地域性」『考古学研究』44-1 考古学研究会
- 内田才1970「椿谷古墳」『安来市誌』安来市教育委員会
- 内田律雄・曳野律夫・松本岩雄2012「安来市矢田町椿谷古墳群在中の前方後円墳墳丘測量報告（上）」『島根考古学会誌』29 島根考古学会
- 内田律雄・曳野律夫・松本岩雄2013「安来市矢田町椿谷古墳群在中の前方後円墳墳丘測量報告（下）」『島根考古学会誌』30 島根考古学会
- 菊地芳朗1996「前期古墳出土刀剣の系譜」『雪野山古墳の研究』考察篇 雪野山古墳発掘調査団
- 豊島直博2010『鉄製武器の流通と初期国家形成』塙書房
- 原田律夫1982「椿谷古墳群」『島根県大百科事典』山陰中央新報社
- 東森市良1989「八幡山古墳」『安来市内遺跡分布調査概報』Ⅱ 安来市教育委員会
- 松山智弘2018「山陰」『前期古墳編年を再考する』六一書房
- 安来市教育委員会1988『安来市内遺跡分布調査概報』Ⅰ
- 安来市教育委員会1989『安来市内遺跡分布調査概報』Ⅱ
- 安来市教育委員会1991『安来市内遺跡分布調査報告』

表参考文献

- 1 渡辺貞幸ほか1999『荒島古墳群発掘調査報告書』安来市教育委員会
- 2 東森市良1989「八幡山古墳」『安来市内遺跡分布調査概報』Ⅱ 安来市教育委員会
- 3 内田才1970「椿谷古墳」『安来市誌』安来市教育委員会
- 4 内田律雄・曳野律夫・松本岩雄2012「安来市矢田町椿谷古墳群在中の前方後円墳墳丘測量報告（上）」『島根考古学会誌』29 島根考古学会
- 5 原田律夫1982「椿谷古墳群」『島根県大百科事典』山陰中央新報社
- 6 安来市教育委員会1988『安来市内遺跡分布調査概報』Ⅰ
- 7 松本岩雄（編）1983『寺床遺跡調査概報』東出雲町教育委員会
- 8 大庭俊次（編）2000『社日古墳』島根県教育委員会
- 9 鹿島町教育委員会1985『奥才古墳群』
- 10 曾田辰雄（編）1998『袋尻遺跡群発掘調査報告書』松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化振興事業団
- 11 川原和人ほか2001『茂芳目遺跡、布志名遺跡、大堤Ⅱ遺跡、大堤Ⅰ遺跡、樅の木古墳群、真野谷遺跡、杉谷遺跡、室山

遺跡』島根県教育委員会

- 12 林 健亮・原田敏照2001『上野遺跡・竹ノ崎遺跡』島根県教育委員会
- 13 川原和人(編)2005『畑ノ前遺跡・菅原Ⅰ遺跡・クボ山遺跡・菅原Ⅱ遺跡・菅原Ⅲ遺跡・廻田Ⅴ遺跡・保知石遺跡・浅柄Ⅱ遺跡・柳ノ内Ⅰ遺跡』島根県教育委員会
- 14 蓮岡法暲ほか2002『神原神社古墳』加茂町教育委員会
- 15 加茂町誌編纂会1984『加茂町誌』加茂町
- 16 山本清1965『松本古墳調査報告』島根県教育委員会
- 17 杉原清一・藤原友子1993『斐伊中山古墳群ー西支群ー』木次町教育委員会
- 18 大庭俊次(編)2010『梨ノ木坂遺跡・庵寺古墳群・庵寺遺跡Ⅱ』島根県教育委員会
- 19 三宅博士・松本岩雄・前島己基1977『中山古墳群発掘調査概報』石見町教育委員会

図出典

第1図：川だけ地形図(平26情使第964号)を改変して作成、第2図：安来市教委1988、山本清考古資料より、第3図：吉松実測(個人蔵、安来市立歴史資料館保管)、第4図：安来市教委1989より、ヤリ・剣(5・6)は吉松実測・撮影(安来市立歴史資料館蔵)、第5図：1 豊島2010、2 吉松実測、3 吉松実測、4 松本(編)1983、5 吉松実測(島根県教育委員会蔵、島根県立八雲立つ風土記の丘保管)、6・7 鹿島町教委1985、8 曾田(編)1998、9 川原ほか2001、第6図：10 林・原田2001、11 川原(編)2005、12 蓮岡ほか2002、14 吉松実測(島根県立古代出雲歴史博物館蔵)、15 吉松実測(雲南市教育委員会蔵)、16 吉松実測(島根県埋蔵文化財調査センター蔵)、第1表：吉松作成